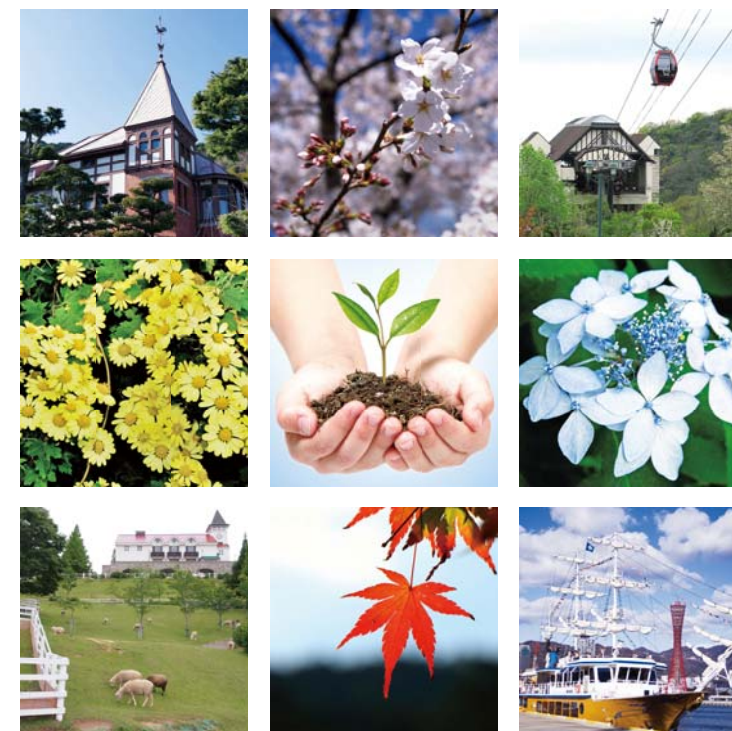




CSR Report 2017



CSR Report

Corporate Social Responsibility
2017



<http://www.kobelcosys.co.jp/>

本社：〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル
東京本社：〒141-8688 東京都品川区北品川15丁目9番12号 北品川IONビル

発行：コベルコシステム株式会社 CSR推進委員会
(事務局 TEL. 078-261-6001 FAX. 078-261-7520)

本誌は、印刷・製本に関して以下のような配慮を行っています

印刷に関する配慮



印刷工程において有害廃液を出さない「水なし印刷」を採用しています。

用紙に関する配慮



森林管理協議会 (Forest Stewardship Council) から認証を受けた適切に管理された森林からの原料を含むFSC認証紙を使用しています。

インクに関する配慮



環境負荷の少ない植物油インクを使用しています。



CSR Report 2017

Corporate Social Responsibility



Top Message

1987年に神戸製鋼所のIT部門を母体に設立されました当社は、おかげさまで本年7月に30周年を迎えます。そのような節目となる2017年も、社外の皆様からご好評いただいている当社のCSR Reportを刊行できますことを誇りに思います。

この30年を振り返りますと、当社設立当初はまだ少なかった24時間365日稼働のシステムの構築・運用ノウハウなど、神戸製鋼所ならではの経験をベースに外販事業を開始し、その後、製造業をコアにしながら金融業、サービス業などのお客様へとビジネスを拡大してまいりました。

その中で、1995年の阪神・淡路大震災でのお客様・自社システムの復旧経験や、2002年にはIT業界をリードする日本IBMの資本参加もあり、ビジネスの質・量ともに大きく飛躍しました。そして昨年度は、当社グループ全体としては事業規模で370億円を超え、約1,500人の中堅IT企業へと成長してまいりました。これもひとえにお客様、パートナー様、地域の皆様に支えられてのことであり、ご支援いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

さて、昨今のIT業界を取り巻く環境は、クラウドやIoT、AI/コグニティブなどのデジタル技術革新が加速的に進む一方で、ITへの期待は「効率化」から「ビジネスへの貢献」に変化し、我々ITサービス会社に対するお客様の期待も「ITベンダー」から、ITの活用の相談相手としてお客様のビジネスを支える「ITパートナー」へと様変わりするなど大きく変化しつつあります。



代表取締役社長

田野美雄



当社は、これらの環境変化に対し、ITの先進技術や活用ノウハウ、グローバル対応力を有する日本IBMと、製造業で100年以上の歴史のある神戸製鋼所の両株主をもつ当社ならではの特色を活かし、ITと業務の両面で人材育成に力を入れるとともに、社員がイキイキとやりがいを持って働ける環境への改善を図っています。社員一人ひとりが当社らしい付加価値を身につけること、これこそがお客様のご期待に応えることにつながると確信しております。

本年が最終年となる中期経営計画に掲げている『For High-Value 2017』は、まさにこの付加価値向上を目指したものであり、“High-Value”というテーマは、来年スタートする新中期経営計画の中でも、さらに追及していくものになってくると考えています。

これらに加えて、ますます重要性が高まっているのがコンプライアンスです。当社は、「IBMビジネス・コンダクト・ガイドライン」(BCG)を「コベルコシステム企業倫理規程」に適用しています。IBMの歴史あるガイドに準拠することで、適正取引をはじめ、正しいビジネス行動のあり方について社員に理解を促しています。また、ガイドだけではなく、全社員が当社の代表であるという意識を持ち、一人ひとりがコンプライアンスの大切さをしっかり理解して正しい判断に基づいて行動する必要性を、さまざまな機会を通じて浸透させています。

当社が継続的に発展していくためには、コンプライアンスの遵守はもちろんのことながら、IT活用の卓越した技術と業務の知見、そしてこれらを支える人材の育成、地域社会への貢献を通じて、今後もお客様やパートナー様、地域を含むすべてのステークホルダーの皆様とともに歩んでいく会社でありたいと考えています。

Contents

CSRの取り組みについて

- 03 「卓越した経営」を目指して
- 05 コベルコシステムのCSRの取り組み
- 07 **特集** 神戸製鋼グループへの貢献

お客様とともに

- 09 お客様の真のパートナーになるために
- 11 品質向上活動に終わりはなし
- 12 セキュリティなくしてビジネスなし
- 13 新たな付加価値を創出するために
- 14 外部からの評価
- 15 お客様事例のご紹介
 - 株式会社ノリツ様 ●サンコール株式会社様

ビジネスパートナー様とともに

- 17 公正なパートナーシップの維持

社員とともに

- 19 人材育成の仕組み
- 21 社員と組織の絆を深めるために

地域社会とともに

- 23 環境保護活動
- 24 社会貢献・地域貢献活動
- 26 会社プロフィール / 沿革 / 編集後記

【報告対象期間】
2016年1月1日から12月31日の1年間の活動を中心に記載しています。一部につきましては、対象期間以前からの経緯やCSRレポート発行時直近の事項についても記載しています。





「卓越した経営」を目指して

コベルコシステムの経営ビジョン

私たちコベルコシステムは、お客様と「夢」を共有し、
確かな知識と卓越した技術によるITソリューション/サービスを通じて、
お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます。

この経営ビジョンは、全社員が共有するビジョンとして、2006年に若手・中堅社員の代表30人が検討し策定しました。お客様の発展とチャレンジに貢献するため、お客様の「こうありたい」という夢を共有し、実現し、お客様に喜んでいただくことが、私たちの夢であり、使命であると考えています。

これまで現場の経験で培ってきた優れた品質や高度な技術、それを支える確かな業務知識やIT専門知識、そしてお客様の

夢を実現させるために必要な「知恵」を駆使することで、お客様の期待を超えるソリューション/サービスを提供し続けたい。このような想いから、この経営ビジョンが生まれました。

社員自らが作った経営ビジョンを掲げ、常にお客様の立場に立った行動、ITのプロフェッショナルとしてのお客様への貢献、そしてお客様と夢を共有できる会社。コベルコシステムは、そのような会社を目指しています。

中期経営計画 (For High-Value 2017) 2016年の成果

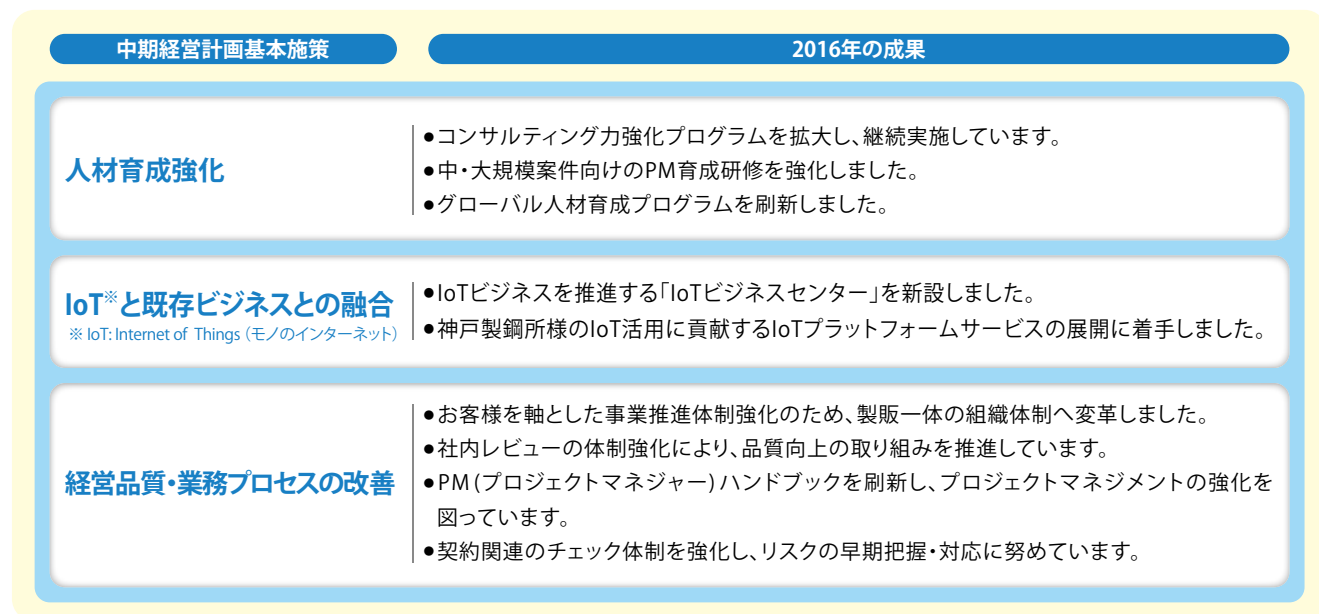
お客様から信頼され、選んでいただける会社であり続けるために、2015年から中期経営計画“For High-Value 2017”を展開しています。

高価値化を実現するビジネスの創発、人材育成、社員の行動

変革を促す仕組みづくりに経営資源を集中投下し、「価値の創造 ⇒ 高価値の提供 ⇒ 収益向上 ⇒ さらなる価値の創造」のスパイラルをすることにより、お客様に高価値をご提供するHigh-Value Companyを目指していきます。

For High-Value 2017

～Innovation For High-Value Company～



マネジメント・経営品質

コベルコシステムのマネジメントは、「常にお客様満足の追求を経営の中心に置き、組織プロセスを変革する」という考え方を基本としています。

コベルコシステムでは、経営品質向上プログラム*の「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」の4つの基本理念を軸に組織プロセスの変革に取り組んでいます。

*経営品質向上プログラムは、日本経営品質協議会のプログラムで、顧客、競争(独自性)、社員、社会のすべてにおいて高い価値を作り出すために革新し続ける経営づくりを支援するプログラムです。

「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」の4つの基本理念から構成されており、これらをすべて満たすことが卓越した経営に共通した条件とされています。

顧客本位

お客様に信頼される真のパートナー
私たちは、お客様ごとのニーズに応じて情報システムを構築・提供するサービス業であり、常にお客様の価値を創造していくことが使命です。

独自能力

他社との違い
現場の経験で培ってきた優れた品質・高度な技術、それを支える確かな業務知識やIT専門知識、そしてお客様の夢を実現するための独創的な「知恵」が私たちの財産です。

社員重視

プロフェッショナル人材
挑戦し、学び続ける自律した人材と、お互いを尊重する自由闊達な組織風土が、事業を営んでいくための重要な資産です。

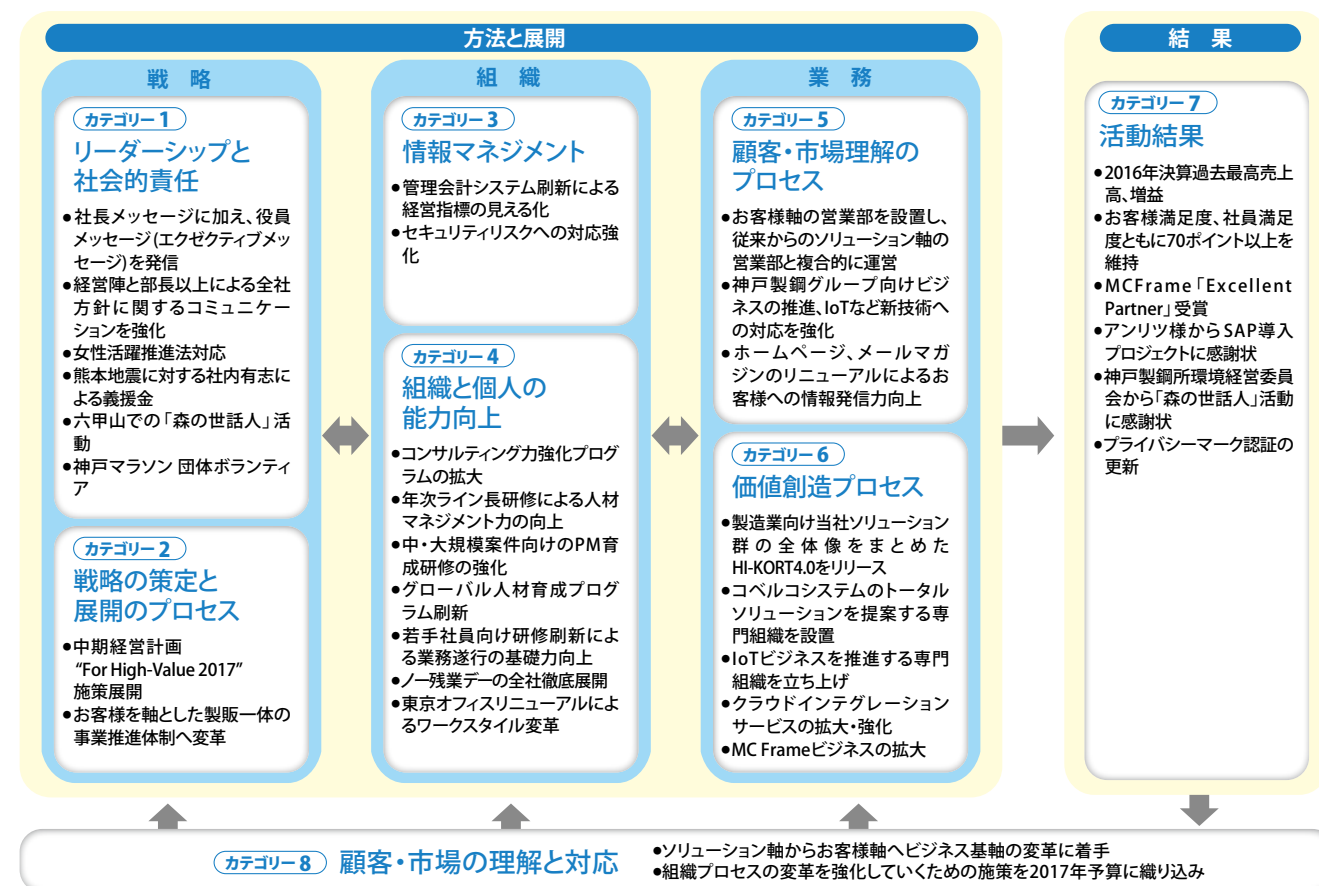
社会との調和

企業倫理の遵守と健全な成長
コンプライアンスを推進し、適切なガバナンスを自律的に作り上げ、社会的な価値観で考え行動し、地域貢献活動にも積極的に参画する企業文化が卓越した企業の証です。

経営品質向上プログラムのフレームワークと2016年の活動結果

組織プロセスの変革は、下図の8つの視点=カテゴリーで実践し、評価しています。

各カテゴリーでの2016年の活動結果を下記フレームワークに示します。





コベルコシステムのCSRの取り組み

CSR推進活動方針・推進体制

- ① ステークホルダーに対する「大切に想う気持ち」に根ざして、CSR活動を推進する
- ② コベルコシステムならではのCSR活動を展開する
- ③ さまざまな活動への参画を通じて、CSRへの理解を社内に広く浸透させる

コベルコシステムでは、CSRを「経営を支える大切な取り組み」と位置付けており、経営ビジョンを実現するための活動として推進しています。

設立20周年にあたる2007年、社会的責任を果たすためのさまざまな活動を整理・体系化、2009年にはCSR推進委員会を設立し、2010年に「CSR推進活動方針」を策定しました。これまで、コンプライアンスの強化と情報セキュリティの強化、リスクマネジメント、適正取引の推進、社会貢献活動の充実を目指して活動してきました。

CSR推進委員会は経営会議の諮問機関として、社長をオー

ナー、CSR担当役員を委員長とし、各部門から選出されたCSR推進委員で構成されています。この委員会が全社のCSR推進活動方針に基づいた重点活動領域の設定、個別テーマのワーキンググループによる活動、社内外へのCSR情報の開示などのコミュニケーション活動を担っています。

2012年4月には、適正取引に関する活動をしていた「適正取引推進委員会」をCSR推進委員会に「適正取引部会」として統合し、コンプライアンス強化の一環として推進する体制に再編しました。また、これらの活動を幅広くステークホルダーの皆様にご理解いただくために、2010年からCSRレポートを発行しています。

コベルコシステムのステークホルダー

お客様
ITソリューション/サービスを通じて
お客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

社員
社員の成長と働き甲斐が
コベルコシステムの企業発展の原動力である
3T(楽しい、短時間、達成感)職場の実現

株主
日本IBM、神戸製鋼所のグループの一員として
企業活動を推進する



ビジネスパートナー様
ビジネスパートナー様と
健全でWin-Winの関係を築く

行政
法令等を正しく理解・遵守し、
行政との良好な関係を保つ

地域社会
当社の得意とする知識や保有する経営資源に即して、
企業市民として社会への貢献を確実に実行する

CSR推進活動の軌跡



ガバナンス推進体制

株主総会を起点とし、取締役会、および経営会議を基盤とする経営管理体制によって運営しています。取締役および執行役員の任期は1年として各年度の経営責任を明確にし、経営環境の変化にも迅速に対応できる体制としています。

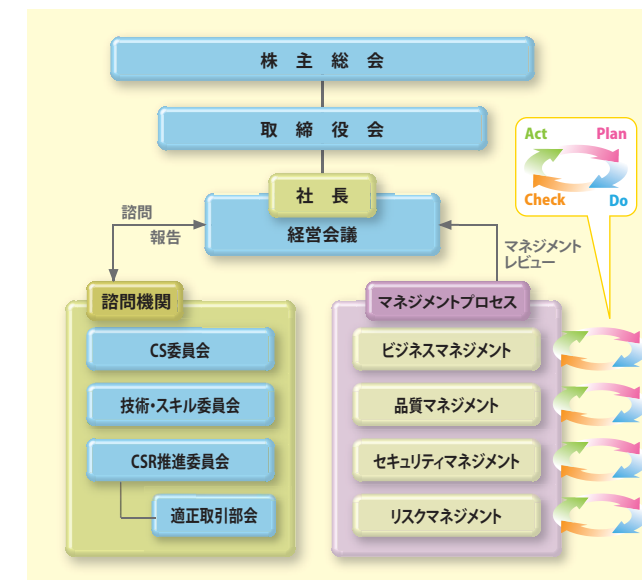
取締役会は、3ヶ月に1回の定期開催、および必要に応じて随時開催し、業務執行の基本となる意思決定や監督を行っています。経営会議は、経営戦略や重要施策の策定など、経営上の重要事項を審議・決定します。

コベルコシステムは、米国に本社を置くIBMグループの一員であり、SEC(米国証券取引委員会)の会計基準および米国SOX法に準拠したIBMの内部統制の配下にある会社です。

最高経営責任者(社長)および最高財務責任者(管理部長)は、四半期単位で財務諸表が正確であること、内部統制が健全に機能していることをステークホルダーに宣誓しています。

業務の有効性や効率性、財務諸表の健全性や信頼性、法令

遵守などコベルコシステムの内部統制環境が機能していることを保証するためにSOXテストやモニタリングを実施しています。



コンプライアンス推進体制

お客様に信頼される真のパートナーになるために、法令などを遵守するのはもちろん、企業倫理に則した行動を取ることが必須です。コベルコシステムでは、「IBMビジネス・コンダクト・ガイドライン」(BCG)を適用した「コベルコシステム企業倫理規程」を制定し、社員一人ひとりが行動する際のガイドとしています。

また、企業活動を取り巻く、多様化、複雑化、かつ高度化するリスクに対して適切に対応することも求められるため、コンプライアンス推進活動の一環としてリスクマネジメント活動を継続しています。これは、リスク管理チェックリストを使用した自主点検を

中心とする取り組みで、その結果に基づき、残留リスクへの改善策を策定し実施するPDCAサイクルを回しています。

当社は、ビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行するため、ビジネスパートナー様との取引が適正に行われているかどうかの確認も重要です。このため、「発注者の請負の適正化のための自主点検」チェックリストを使用した自主点検を実施し、その結果に基づき、懸念のある項目に対しては適正取引部会が責任者へのヒアリングを実施して具体的な懸念の内容を確認し、改善に向けたアドバイスや対応策の指示などを行っています。

2016年度 リスクマネジメント推進活動

2016年2Q~2017年1Q

Act 2016年4Q~
是正・改善の実施

Check 2016年4Q
自主点検結果の評価



Plan 2016年2Q

リスクマネジメント整備・浸透
● 前年の自主点検結果を反映した
リスク管理チェックリストの改訂
■ 本社部門用(規程・ガイド制定側)
■ 現業部門用(規程・ガイド遵守側)
● 新リスク管理チェックリストのための
自主点検実施ガイド

Do 2016年3Q

● 新リスク管理チェックリストによる
自主点検の実施



特集 神戸製鋼グループへの貢献

コベルコシステムは、神戸製鋼グループの「IT機能分担会社」として位置付けられています。

神戸製鋼所から日本IBMへのITの戦略的アウトソーシングにおける実行面の役割はもちろん、先進技術の活用やグローバル対応などを含め、ITによる神戸製鋼グループ企業のさまざまなビジネスへの貢献に取り組んでいます。

IoT[※]インフラプラットフォームサービス

神戸製鋼所は、幅広い分野の「ものづくり力強化」施策のひとつとして、製造現場や製品におけるビッグデータやIoTの活用を積極的に取り組んでいます。コベルコシステムでは、それらのお客様ニーズに対応して2016年4月に「IoTビジネスセンター」を立ち上げ、お客様が簡単に素早くIoTの実証実験や活用を検討できる「IoTインフラプラットフォームサービス」を提供しています。

当サービスは、「お客様の製品や現場装置との接続支援→IoT回線の提供→データ収集/蓄積/保管→可視化」を一気通貫で提供し、データ分析支援とあわせてお客様の課題解決や新たなビジネスモデルの検討に貢献しています。

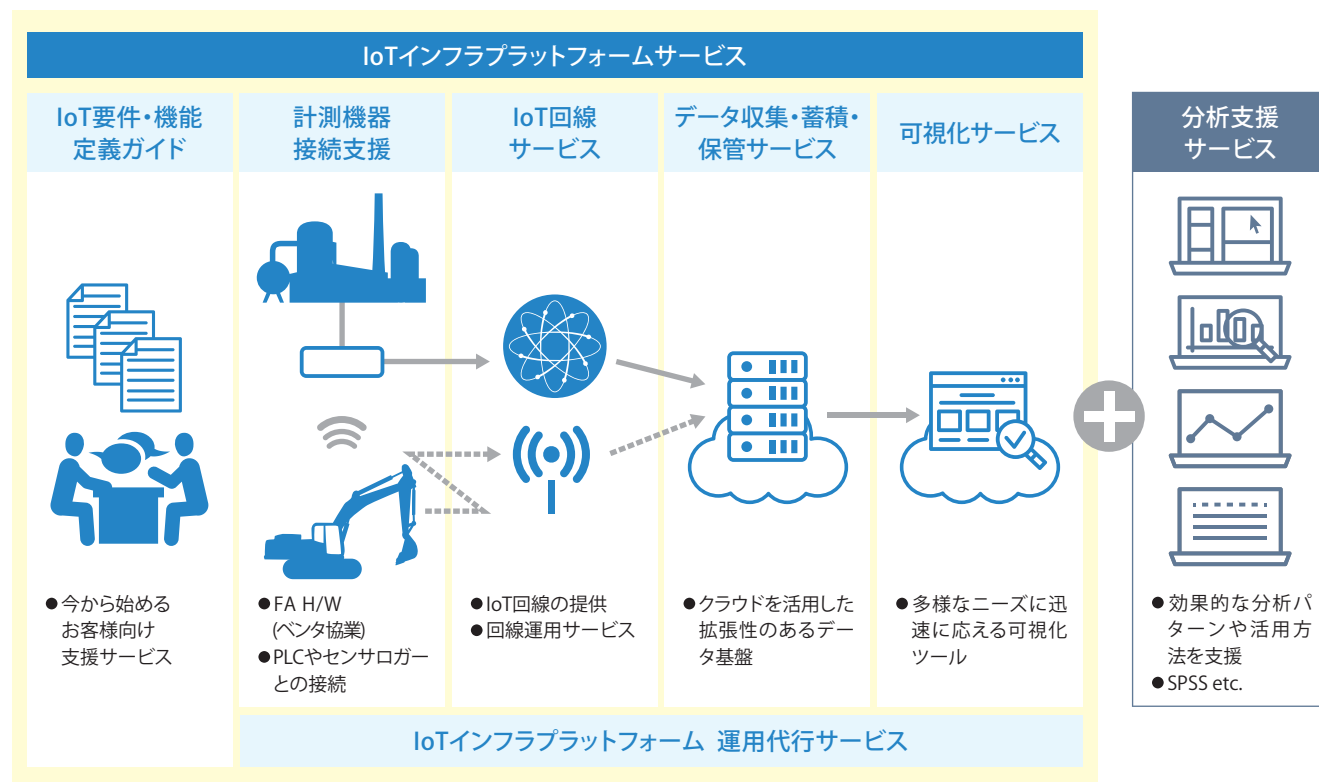
既に、神戸製鋼所機械事業部門にて、当サービスは「お客様へ納入する産業機械(食品用高圧処理装置)の稼働監視、故障予知などを実現する基盤」として稼働しています。今後は、機械事業部

門が提供しているさまざまな機種において活用できる標準的なIoTインフラプラットフォームを構築し、IoTの活用推進に貢献していきます。



■食品用高圧処理装置の外観

※ IoT: Internet of Things(モノのインターネット)



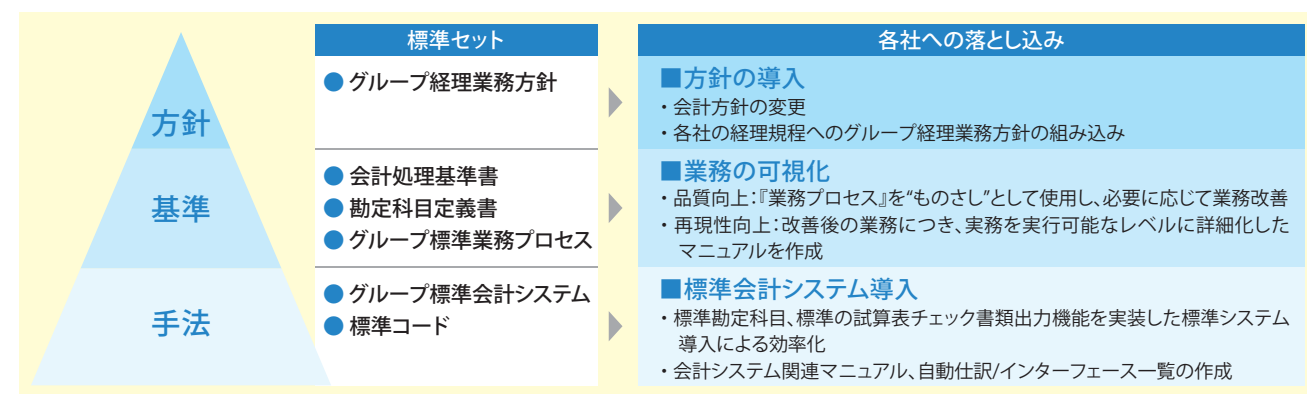
グローバル対応—グループ経理業務・システム標準化の取り組み

神戸製鋼所は、グローバル対応の一環で、本社経理部とIT企画部の主導により2014年からグループ会社(国内外200社以上)の経理業務を標準化するプロジェクトに取り組んでいます。コベルコシステムは、標準会計システムの構想から、構築、導入、運用にいたるまで全面的な対応を実施しています。

当プロジェクトは、『グループ経理業務標準セット』(以下「標準セット」と呼ばれるグループ共通の方針、ルール、およ

びシステムを2020年までにすべてのグループ会社に順次適用することにより、財務会計にかかわるガバナンス強化、決算精度向上、および業務効率化に資することを目的としています。

国内では順次各社に標準セットが展開され、標準会計システムの運用も開始されています。また海外でも2017年から本格的に標準セットの展開を始めています。



	2014年12月~	2015年4月~	2016年1月~	2017年1月~	~2020年度
国内	会計基準	Draft作成・展開	適用開始		
	業務プロセス	順次Draft作成・展開(14プロセス)			
	標準会計システム	システム構築	システム更新時に順次導入		
海外	会計基準		Draft作成・展開	適用準備完了地域から適用開始	
	業務プロセス		Draft作成・展開	適用準備完了地域から適用開始	
	標準会計システム		システム構築	システム更新時に順次導入	

適用完了

コベルコシステムは、標準会計システムとして当社のノウハウを集約させたERPテンプレート(HI-KORT)をベースに各国向けのローカライズ機能を搭載させた「神鋼標準テンプレート」を構築してきました。国内では約30社に導入しており、海外では中国およびアメリカの各グループ会社向けのローカライズと横展開の準備が完了、順次導入を進めています。

なお、標準会計システムのベースとなるパッケージは、会社規模にあわせて「SAP/ERP」「DynamicsAX」「勘定奉行V/ERP」が対象となっており、コベルコシステムはすべて対応しています。また、これらは国・地域別にクラウド環境で構築しており、運用は当社にて集中管理しています。

選定された標準会計システム	SAP/ERP (SAP社)	DynamicsAX (Microsoft社)	勘定奉行V/ERP (OBC社)
導入企業規模	大規模	中小規模	小規模
導入企業地域	国内/海外	国内/海外	国内
搭載機能	非常に充実	比較的充実	一部機能のみ
カスタマイズ	可能	可能	ごく一部可能
導入コスト	高(数億~数十億円)	中(数千万円)	小(数十~百万円)



お客様の真のパートナーになるために

コベルコシステムでは、「お客様満足度向上活動」を経営を支える大切な取り組みとし、お客様の声に耳を傾け、お客様のご期待を超え、お客様に感動していただける会社作りに取り組んでいます。お客様に愛され、お客様の真のパートナーとなることをコベルコシステムは目指しています。

CS委員会

お客様満足度向上の観点から、全社レベルの施策を検討し、迅速に対応する仕組みとして、全社横断的な組織であるCS委員会を設置しています。2002年の活動開始から今日にいたるまで、お客様に満足していただけるサービスをお届けできるように、社員のCS意識の向上に向けたさまざまな活動を展開しています。



CS委員会の討議

CS集中討議会

「腑に落ちたCS意識の浸透」を目的に合宿形式で討議会を行っています。お客様視点での思考の大切さ、それに向けた行動変革などについて、真剣な議論を行っています。社員の心豊かな感性を育む場としても、重要な役割を果たしています。



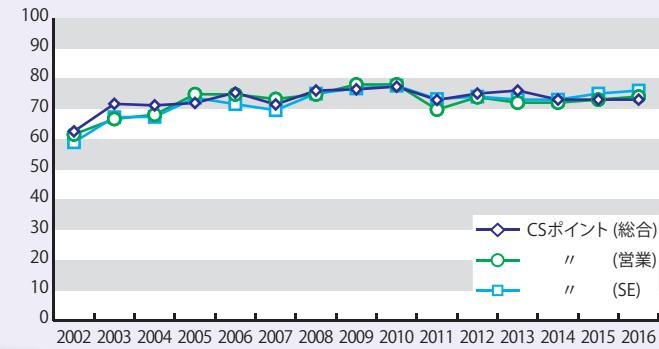
討議



発表

CS (Customer Satisfaction) 調査

お客様がコベルコシステムに求めていることを知り、その思いに真摯に応えることで、お客様の真のパートナーであり続けたいと考えています。そのための方法としてお客様からのご意見やご評価をいただく「CS調査」を行っています。CS調査は、コベルコシステムの活動全般に関する「お客様満足度調査」、構築・開発プロジェクトに関する「プロジェクト満足度調査」、運用保守サービスに関する「サービス満足度調査」の3種類を適時に行っています。



活動結果のご報告 (MET)

SETでお客様とお約束した活動の進捗状況や達成状況をお客様に報告し、お客様の期待に応えることができたかを評価していただいています。活動が不十分であったり、さらなる課題についても確認し、継続して活動していきます。

業務改善活動

2016年の業務改善活動は、昨年に引き続き過去最多を更新する88チーム、635人が活動に取り組みました。活動内容は、お客様からのご意見に対する取り組みをはじめ、業務効率化や品質向上などへの取り組みも行っています。その集大成として、業務改善活動発表会を年1回開催しています。全国各地の事業所をTV会議システムで接続して、全社で活動内容を共有し、横展開を図っています。

2016年業務改善活動最優秀賞チームの声

活動テーマ：定量的プロジェクト管理の推進
チーム名：どんぶり

業務改善活動を行うことによって、他部署から活動に関する問合せや、応援の言葉をたくさんいただきました。この活動がより良い活動に育っていくことを期待しています。

チームリーダー 當銘 正義さん



お客様の真のパートナーになるために



改善内容のお約束 (SET)

CS調査でお客様からいただいたご意見をもとにお客様の課題とコベルコシステムへの期待を確認し、今後の改善内容についてお約束しています。コベルコシステムでは、お約束した内容に基づき改善活動を行っています。

CSスローガン

毎年、社員からCSスローガンを募集し、その中から全社員の投票により翌年のCSスローガンを決めています。決定したCSスローガンはポスターにして各事業所の執務フロア、会議室など、社内各所に掲示し、社員のCS意識の向上を喚起しています。



2017年CSスローガン

2017年CSスローガン作者の声



システム事業部 SO本部 第2サービス部 鍛鍛システム室 小山 隼人さん

今年の5月に室長となって初めてのCSアンケートで、昨年よりポイントが下がってしまいました。来年はどうしてこうかと思案している中で、このスローガンを考えました。鍛鍛システム室のメンバーとともに、スローガンにある思いを浸透させていきたいと思っています。

CS研修

社員のCS意識のワンランクアップを目指して、毎年、全社員を対象としたCS研修をe-ラーニング形式で行っています。毎年受講率100%を達成し、社員からもCS意識の向上に大変有効であるとの声が上がっています。

CS通信

社員一人ひとりがお客様の気持ちを理解することの重要性を再認識し、常にお客様の立場に立った行動ができるように、毎月一回『CS通信(メールマガジン)』を全社員に配信しています。社員の体験談などを記載したコラムを中心に、街で見つけたCS、CS川柳など、親しみやすい内容で構成され、社員が楽しみながらCS意識を向上しています。



品質向上活動に終わりはない

コベルコシステムでは、システム開発・構築における品質向上を図るため、1999年に認証を取得したISO9001をベースにCMMI(統合能力成熟度モデル: Capability and Maturity Model Integration)の

考え方を取り入れた品質マネジメントシステム「KQMS」を構築しています。さらに、この下に「KDPS」「品質レビュープロセス」と呼ぶコベルコシステム独自の仕組みを構築しています。

2016年 全社品質方針

お客様へのHigh-Valueサービスの提供を実現するために、
デリバリー品質向上の仕組みを継続的改善によりさらに強化し、高いレベルでの品質の均一化を図る

品質マネジメントシステム

KQMS : KOBELCO SYSTEMS Quality Management System

KQMSは、全社で共通のQCD管理サイクルを制定し、それぞれのプロジェクト状況を一元管理しています。

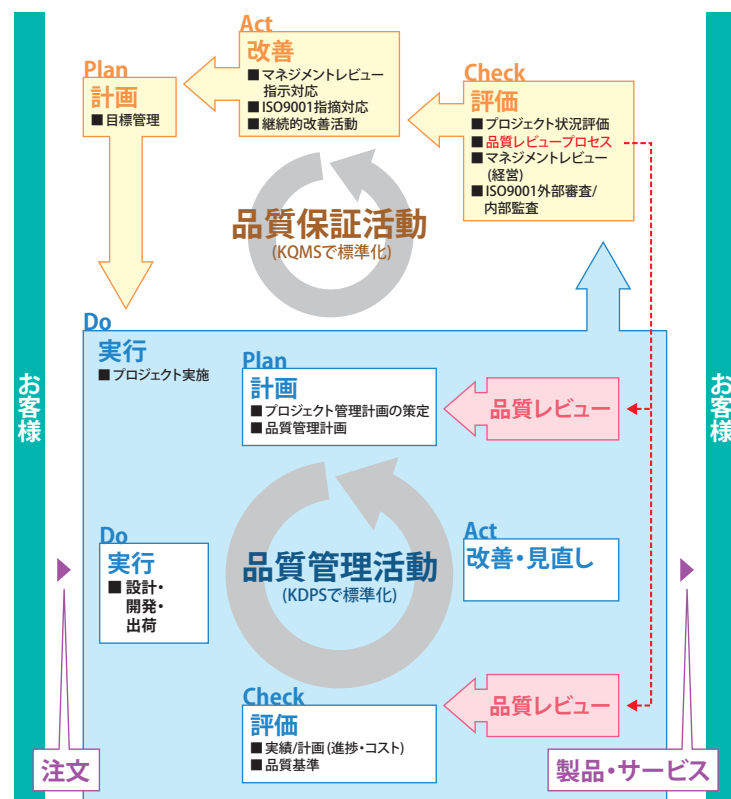
全社品質方針・品質目標管理によるマネジメントレビューのもとでQCDの管理レベルの平準化とプロジェクト情報の見える化を実現しています。また、継続的に改善活動を行うことによって、組織としてのQCD管理レベルの向上を図っています。

開発プロセス標準

KDPS : KOBELCO SYSTEMS Development Process Standards

KDPSは、ソフトウェア開発のプロセス成熟度モデルであるCMMIの考え方を取り入れ、コベルコシステム独自のプロジェクト管理手順をシステム開発・構築プロセスの標準として組み立てたものです。

プロジェクト計画や検証活動の手順・様式を充実させ、管理作業効率向上のための雛形や管理ツールも準備しています。



■コベルコシステムの品質マネジメント体制

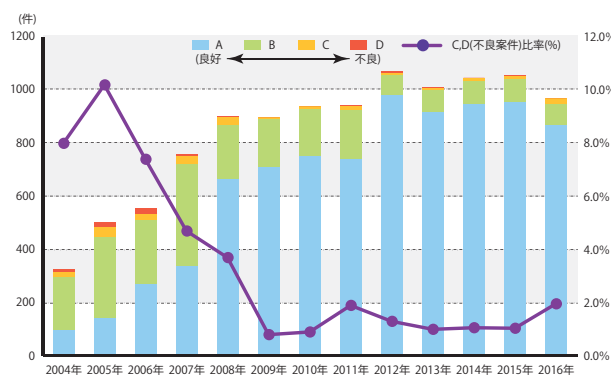
品質レビュープロセス

個々のシステム開発・構築が、お客様のご要望を満たし、高品質かつ所定のコスト内で確実に実現できるようにするため、コベルコシステム独自の品質レビュープロセスを実施しています。

このレビュープロセスは、お客様への提案段階からサービス実施期間全体を対象とし、サービスの成功を脅かすリスクの特定・定量化・対応策策定を行うため、特別に訓練されたレビューアによって実施しています。

ISO9001の認証 (2014年更新、2016年11月認証継続)

適用規格[ISO9001:2008]の定期審査を2016年11月に受審し、改善指摘事項(重大な不備)は発見されず、認証は継続されました。現在、新規格[ISO9001:2015]更新に向けて移行対応中です。



■プロジェクトの品質評価別件数

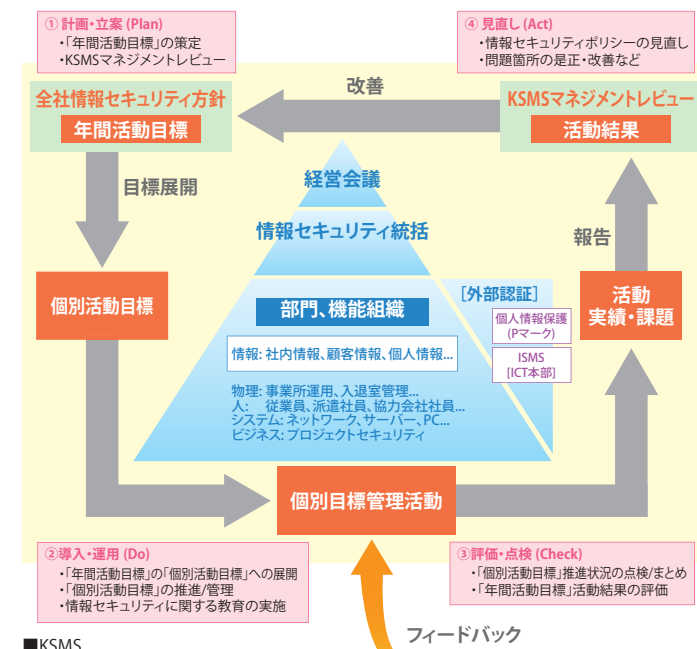
セキュリティなくしてビジネスなし

情報セキュリティマネジメントシステム

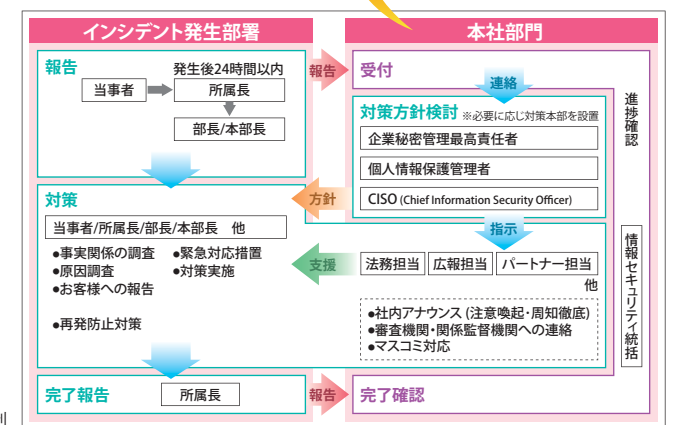
KSMS : KOBELCO SYSTEMS information Security Management System

インターネットが社会の経済活動に欠かせないインフラに成長するとともに、ITを利用したテロ、詐欺、窃盗や個人情報漏えいなどが大きな社会問題となっています。日本でも、サイバーセキュリティ基本法を定め、「サイバーセキュリティ戦略本部」「内閣サイバーセキュリティセンター」を設置し、対策を推進しています。

このような社会的要請のもと、情報システムを生業とする当社としては、関連会社も含めKSMSというセキュリティマネジメント体系を定めてセキュリティ活動を行っています。KSMSは、経営幹部によるマネジメントレビューのもと、情報セキュリティポリシーの設定・見直しおよび、「物理環境」「システム環境」「人的」「ビジネス」「社会的責任」の各視点でセキュリティ活動のPDCAサイクルを回し、リスクの変化に適応した最適なセキュリティ水準を維持しています。また、突発的なセキュリティ・インシデントには、全社対応体制を整備し運用するとともに、適宜セキュリティ活動にフィードバックしています。



■KSMS



■セキュリティ・インシデント対応体制

プロジェクトセキュリティプロセス

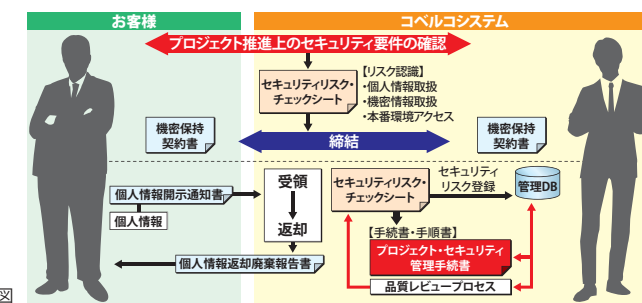
PSP : Project Security Process

コベルコシステムでは、プロジェクトのQCD管理に加え、2009年からPSPによるセキュリティ管理を推進、強化してきました。PSPとは、プロジェクトごとにセキュリティリスク(個人情報の取り扱い、機密情報の取り扱い、本番環境アクセス)を把握したうえで、お客様とリスクを共有し、対応策を実施していくセキュリティ管理手法です。

この手法の運用定着化をまとめた論文(2014年)と情報漏えいリスク発見アプローチをまとめた論文(2015年)は、IBMユーザー論文で銀賞と銅賞を受賞しました。

■プロジェクトセキュリティ対策概念図

お客様からお預かりしている情報資産を守ること、そしてその情報資産へのアクセスを管理することがコベルコシステムの使命と考え、プロジェクトのセキュリティを確保しています。





新たな付加価値を創出するために

技術・スキル委員会

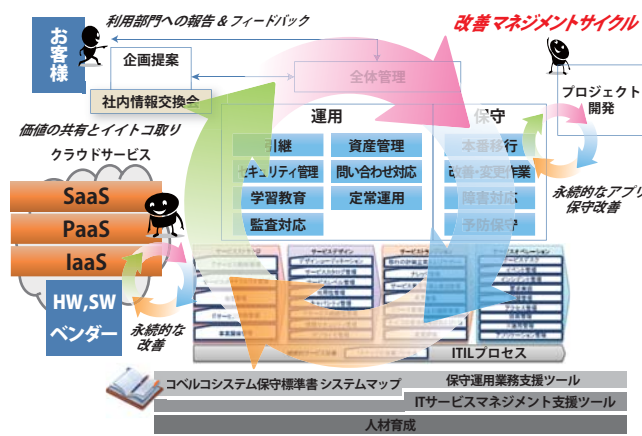
技術・スキル委員会は、経営会議の諮問機関として、取締役を委員長とし、各本部の開発部門長・本社部門長(約30人)を委員として構成しています。

これまでの活動として、コベルコシステムの品質マネジメントシステム(KQMS)や開発プロセス標準(KDPS)の審議、ソリューションテンプレートのアセット化推進、先進技術の推進、PM力強化などの答申を行い、当社の技術・スキルの礎を築いてきました。

さらに、当委員会は全社の技術戦略策定を担う役割を持ち、お客様に高い付加価値を提供できるよう、IoTなどの先進技術を利用したサービスやソリューション提供に向けた議論も行っています。

お客様への保守サービスの高度化、お客様高価値創出を目指して2013年から継続的に全社レベルで取り組んできており、新たな付加

価値創出をもって、お客様とともに成長への変革に挑んでいます。



■保守・運用改善マネジメントサイクル

KTO (KOBELCO SYSTEMS Technology Outlook)

コベルコシステムでは、発展的な視点から当社が活用すべき技術・スキルの今後を鳥瞰できる「KTO」を、2006年から毎年作成しています。グローバルレベルの先進技術動向や国内のIT業界動向と、その成熟度をとらえ、お客様に貢献できるよう当社

事業メニューに特化した技術や先進技術への取り組みの方向性を示しています。お客様が直面されている課題の解決や次期IT環境構築のロードマップ作成をお客様とともに進める一助として活用いただけます。

■業界動向

「いち早くキャッチアップすべき、新しい技術は何か」「競争力を保つのに必要な技術は何か」など、ITを利用する多くの人がどのような技術に関心があり、またその成熟の度合いを知ることは重要です。全体を網羅し、鳥瞰することにより、その年の技術トレンドを理解することができます。

■コベルコシステムの先進技術フォーカス分野

先進技術フォーカス分野は、コベルコシステムの先進技術への取り組みの方向性を示し、今後の事業メニューを支える技術をリードします。毎年、先進技術フォーカステーマを設定し、先進技術への取り組みを推進しています。

先進技術フォーカステーマ

ビジネスの成長と変革を支えるIoT

- ▶IoTで変化するビジネスモデル
- ▶多岐にわたる要素技術とIoTプラットフォーム
- ▶エッジコンピューティングによるリアルタイムデータ処理

API First

- ▶マルチデバイス時代のシステムに不可欠なAPI
- ▶APIが可能にする変化に強いアーキテクチャ
- ▶APIの今後: APIエコノミー

デジタルイノベーションを促進する新たなアナリティクス

- ▶現実世界のデジタル化と人工知能
- ▶言葉から情報を得る事前言語処理
- ▶データの集合から法則性を得る機械学習

■先進技術動向

IT業界の大手ベンダーは、自ら業界のイノベーションをリードしており、宣伝が先行して新技術への期待は一時的に高まります。技術の黎明期から安定期にいたるまでの、成熟度の変化をとらえて技術の採用時期を考慮することが必要です。先進技術動向では、中長期的技術を鳥瞰することができます。

■コベルコシステムの事業メニューに特化した技術

コベルコシステムは、お客様の課題を解決し、お客様価値創出に貢献するために、事業メニューに特化した技術を追求しています。お客様とのパートナーシップの強化を通して、お客様の競争力向上に貢献します。



外部からの評価

感謝状・アワード

お客様に納めた先進的なプロジェクトやアセットビジネスの取り組みなどを評価いただきました。コベルコシステムにとって一番の喜びは、お客様からの「ありがとう」です。

2016年もお客様から多くの「ありがとう」が届きました。これからも、お客様から笑顔で「ありがとう」と言ってもらえるよう、お客様のコラボレーションパートナーとして尽力していきます。

■アンリツ様SAP導入プロジェクトに感謝状

アンリツ様の国内グループ会社へのSAP導入プロジェクトに対して、アンリツ様から感謝状をいただきました。コベルコシステムでは、お客様情報システム部と一体となり、アンリツ様グループ会社各社へのSAP ERP導入プロジェクトを推進しており、導入後も現場ユーザーに対するサポートを実施し、継続して改善活動を行っています。



■MCFrame Award

「MCFrame Award 2016」において、「Excellent Partner」を受賞しました。このアワードは、MCFrameの新規受注、導入、認定資格取得者の数を増やすなどの技術者育成、およびマーケティング活動に協力したパートナーに贈られる賞です。これにより、「Excellent Partner」は、6度目の受賞となりました。



IBMユーザー研究会 第54回IBMユーザー論文 入選

全国IBMユーザー研究会連合会では、毎年、「IBMユーザー論文」として、日ごろの業務を通じて得たノウハウや経験、ソリューションなど、情報システムにかかわるテーマで論文を募集しています。

この賞は、事例型論文と提言型論文に分かれ、ともに貢献度、先進性、実証性などが評価基準になっています。これまで、コベルコシステムは最優秀賞をはじめ、過去11年で35論文が入賞・入選しており、高い評価を得ています。

■奨励賞

- [事例型論文] インフラ担当・アプリケーション担当の組織を越えた連携による品質向上の取り組み
- [事例型論文] アプリケーション保守・運用部隊におけるメンバー管理の最適化
- [事例型論文] レガシーマイグレーションにおける帳票基盤構築に必要な3つの工夫
- [提言型論文] パッケージソフト導入時に潜む課題と施策の提言 ～プロジェクト事例から見る～
- [提言型論文] プロジェクト型開発からプロダクト開発への転換におけるPaaS活用の提言



お客様事例のご紹介

株式会社ノーリツ様

株式会社ノーリツ様(代表取締役社長: 國井 総一郎様)は、ガス・石油給湯機器で国内シェア約40%を持つリーディングカンパニーとして温水空調機器、住設システム機器、厨房機器、新エネルギー機器などの製造・販売事業を行っています。1951年に能率風呂を世に送り出して以来、「お風呂は人を幸せにする」という創業の原点のもと、熱効率が高く、環境に優しい製品を生み出し続ける研究開発に重きを置き、日本の「お湯のある豊かな暮らし」を創造してこられました。

創業60年を迎えた2011年、創業の原点・企業理念はそのままに「新しい幸せを、わかすこと。」という新グループビジョンを掲げ、中期経営計画「Vプラン16」をスタートされました。この経営戦略を支えるために、ビジネス環境の変化に迅速に対応できるIT基盤にする必要がありました。そこで、肥大化・複雑化したシステムを統合・刷新し、システムの信頼性を高め、維持コストの低減を図るために、レガシーシステムの再構築に取り組みされました。新システムでは、システム基盤にSOA環境を有するERPパッケージを導入し、その標準機能をフル活用する一方で、ノーリツ様の強みとして独自性を求める領域はスクラッチ開発の手法を採用されました。



■ガス給湯器



■ビルトインコンロ



■システムバス ユパティオ



■システムキッチン レシピア

コベルシステムは、お客様の課題に対して、柔軟で拡張性に富み、堅牢なソリューションである「MCFrame」を提案しました。また、「統合」をコンセプトにシンプルなシステム構成にし、TCOを削減するノウハウを提供しました。プロジェクト推進力や経験、長年の取引実績から醸成された信頼感をご評価いただき、次世代基幹システム構築のパートナーとしてコベルシステムをお選びいただきました。この次世代基幹システム構築プロジェクトは、2011年からスタートして、段階的な導入により、Step1が2013年5月、Step2が2015年8月に本番稼働しています。

「プロジェクトには何度か難しい局面もありましたが、そのたびにコベルシステム様の粘り強さとリードで無事に本番稼働が迎えられました。皆様の非常に献身的かつ真摯な取り組みのお陰で、プロジェクトが完遂できたことを感謝しています。」(次世代基幹システム構築プロジェクト責任者 河合史夫様)



■プロジェクトチーム(前列左端が 河合様)

ノーリツ様では、2017年からの新たな中期経営計画のもとで、さらなる「攻めのIT」「守りのIT」による経営への貢献を目指されています。コベルシステムは、これからも中長期的成長を視野に入れた提案を行い、お客様の発展に貢献していきたいと思っています。



サンコール株式会社様



サンコール株式会社様(代表取締役社長: 山主 千尋様)は、1943年の創業以来70年を超える歴史の中で、世界的な自動車関連部品、電子・情報機器部品、光通信機器部品のメーカーとして業界で高い評価と幅広い支持を得てきました。コア技術の精密塑性加工をベースに、エンジン用弁ばね、リングギアに代表される自動車関連部品マーケットで高いシェアを保持しています。世界でも類を見ない『材料から加工品までの一貫メーカー』として不動の地位を確立しています。



■ハードディスク用ヘッド部品



■EV/HV/PHV用モーター部品

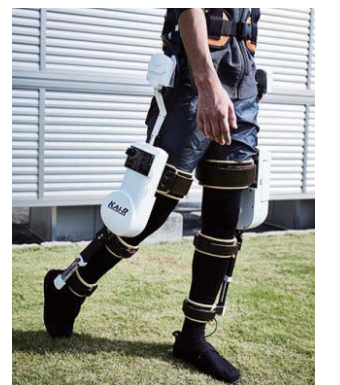
は、サプライチェーン強化のための「生産の見える化」、コスト競争力強化のための「工程内ロス管理充実」、品質向上やシステム管理効率化のための「トレーサビリティ向上」や「情報活用的高度化」などを提案し、お客様の課題解決を目指して生産管理システム刷新を支援しました。



■自動車用エンジン弁ばね



■ワイヤー(線材)



■リハビリテーション用能動型膝関節アシスト装置(山梨大学・大日本印刷と共同開発)

サンコール様は2013年、グローバル市場でのシェア拡大を目指して中期経営計画「プラン36500」をスタートさせました。ところが、これらを支える生産管理システムは老朽化による構造的課題を抱えていたのです。

そこでサンコール様は、現状システムの課題や業務ニーズへの対策など、生産管理システム刷新の構想立案に、コベルシステムのコンサルティングサービスを活用されました。当社から

この新生産管理システム構築プロジェクトは、2014年4月に要件定義をスタートして、設計、開発を進め、2015年10月に無事サービスインしました。その後の定着化支援を経て、安定的に運用されています。

コベルシステムは、お客様と一緒に策定させていただいたIT中期計画の実現に向けて支援を続けています。今後も、「信頼される真のパートナー」として、ともに成長していきたいと思っています。

お客様の声

ワイヤー加工のプロセス管理では、その仕様に当社独自の要求を色濃く織り込んだためパッケージソフトの適用が難しい状況でした。そのため、スクラッチ開発にあたっては、同業他社の生産管理システム構築実績の豊富さが、コベルシステムさんを選んだ最大のポイントとなりました。

プロジェクトでは無茶を言う現場の声をうまく調整していただき、大きな問題もなく完遂できました。優秀なPMさんをアサインいただいたことも成功要因だったと感謝しています。現在、当社のワイヤーは海外生産比率が3分の1を占めており、将来的には同じ仕組みの海外展開を考えています。拠点の規模に合ったスリムでリーズナブルなシステムを期待しています。



代表取締役副社長 常務執行役員
生産事業本部長
岡部 清文 様

執行役員
業務・管理部門長
杉村 和俊 様

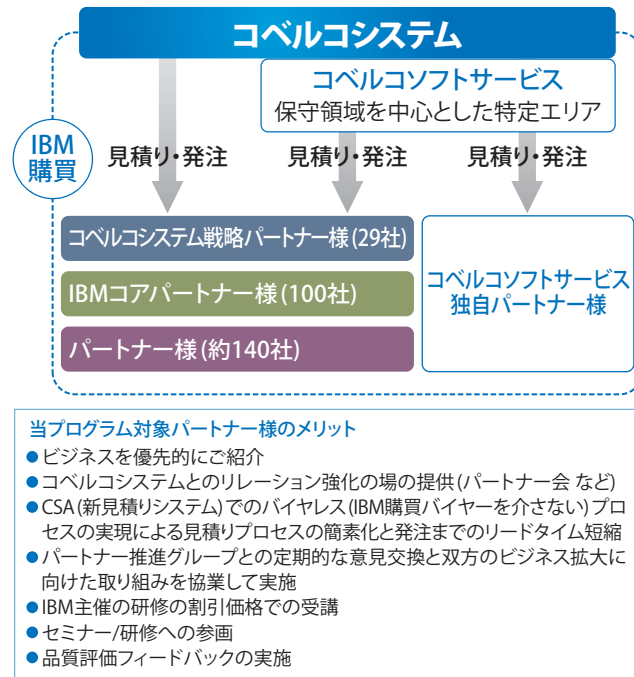


公正なパートナーシップの維持

より強固なパートナーシップの構築

2016年1月、コベルシステムでは、「コベルシステム戦略パートナープログラム」を導入しました。このプログラムは、価格競争力を保ちつつ、品質の高いサービスをご提供いただけるパートナー様と戦略的パートナーシップを結ぶことで、お客様へさらに価値あるサービスをご提供することが目的です。

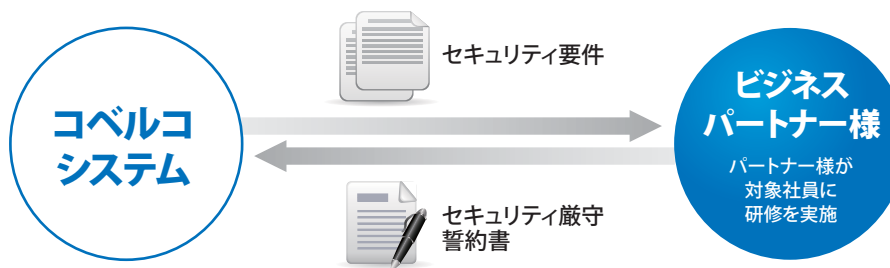
戦略パートナー様には各社の強みや技術者情報などをご提供いただき、当社からは今後のビジネスを優先的にご紹介するなど情報連携を強化します。それによって、より高いセキュリティ遵守、適正取引などの法令遵守の相互協力、また、見積りプロセスの簡素化や品質評価のフィードバックの実施など、相互にメリットをもたらす、より強固なパートナーシップを構築しています。



一体となってセキュリティを確保

コベルシステムは、ビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行しています。その際、ビジネスパートナー様には、コベルシステム社員と同等の基準でセキュリティを確保し、お客様に安心をお届けできるようご協力いただいています。

コベルシステムでは、社員に対し、セキュリティ事項の遵守、徹底を図るために、毎年内容を見直して研修を実施しています。また、ビジネスパートナー様に対しては、各社の責任者に依頼し、対象社員に向けて研修を実施していただいています。2016年度の



セキュリティ研修においても、対象者全員が十分な理解状況にあることを各社からの履修理解度報告で確認しています。これにより、コベルシステムとビジネスパートナー様が一体となって、お客様のセキュリティ確保につなげています。

適正取引の推進

コベルシステムでは、ビジネスパートナー様へのそれぞれの業務委託方式にあわせた発注・進行管理を行っています。それらを適正に行うために、CSR推進委員会の下部組織として「適正取引部会」を設け、適正取引ガイド、e-ラーニングなどにより、具体的なガイドを社内に徹底する一方、ビジネスパートナー様に対しても定期的なレターを送付、アンケート調査、個別訪問の実施などを通じてその理解と実践をお願いしています。

主な取り組みは、以下の3点です。

- ① ビジネスパートナー様における適正取引状況の調査
- ② ビジネスパートナー様の再委託先活用状況確認
- ③ 請負の適正化のための自主点検実施および実態調査

これらの活動により、ビジネスパートナー様との健全な関係を維持し、お客様をサポートしています。

ともにコンプライアンスを遵守し業務遂行力を向上

コベルシステムでは、ビジネスパートナー様とともに成長していくため、ビジネスパートナー様の「コンプライアンス遵守状

況」と「業務遂行力(プロジェクト遂行力)」という2つの観点から総合的な確認を行っています。

■コンプライアンス遵守状況に関する確認

会社としてのコンプライアンスへの取り組みを以下の項目で確認しています。

- ① コンプライアンスに関する専任者の設置など
- ② 取引の適正化に向けた取り組み姿勢
- ③ セキュリティ管理
- ④ 公的認証の取得
- ⑤ 組織的・人的・物理的・技術的安全管理

■業務遂行力(プロジェクト遂行力)に関する確認

プロジェクトでビジネスパートナー様と協業したコベルシステムのプロジェクトマネージャーが以下の項目で判断しています。

- | | |
|----------|--------------|
| ① 品質 | ④ プロジェクト管理能力 |
| ② 生産性と価格 | ⑤ 技術力 |
| ③ 納期 | ⑥ 総合的対応力・体質 |

各ビジネスパートナー様のレベルアップ活動を支援するため、結果をフィードバックしています。

ビジネスパートナー様への感謝

毎年、コベルシステムでは、「コベルシステムパートナー会」を開催し、当社の業務に貢献いただいたビジネスパートナー様への感謝として、ベストパートナー賞を贈呈しています。

2016年のベストパートナー賞を贈呈した(株)サイプレス・ソリューションズ様から、次のようなメッセージをいただきましたので、ご紹介いたします。

ビジネスパートナー様の声

株式会社サイプレス・ソリューションズは、1974年(昭和49年)に株式会社ヒメジインフォメーションセンターとして創業して以来、コベルシステム様とは、旧神戸製鋼所IT部門時代から40年以上にわたって変わらずご愛顧いただき、システムの開発・運用・保守に携わらせていただいております。

コベルシステム様のCSRへの取り組みは、弊社も見習うべき活動が多く勉強になります。地域社会へ貢献し、協賛しておられた「アニメーション神戸」では、弊社も参加させていただき、マスコットキャラクターの「ヒノッキー」が誕生しました。

定期開催される「セキュリティ関連の年次研修」では、コベルシステム様の情報セキュリティなしではビジネスが成り立たないという強いお考えを感じ、弊社をはじめパートナー企業の技術者一人ひとりが「コンプライアンス」「セキュリティ」「プライバシー」への意識を高めていると実感しております。

非常に名誉なことに、2016年は、前年度の業績貢献度をご評価いただき、コベルシステム様の数あるパートナー様から、ベストパートナーに選ばれました。

これからも信頼されるパートナーとして、「法令の遵守」「情報セキュリティの保持」「個人情報の保護」に取り組むとともに、

誠実、かつ強い社会的責任感を持ったうえで、専門技術・知識を磨き、変化する環境を受け入れ、それぞれの役割において真のプロフェッショナルとなるよう切磋琢磨してまいります。

コベルシステム様とさらなる信頼関係を築き、ともに成長・発展していく所存です。



株式会社サイプレス・ソリューションズ 西日本事業本部 神戸営業部 部長 黒坂 稔彦 様
当社 川瀬社長(当時)



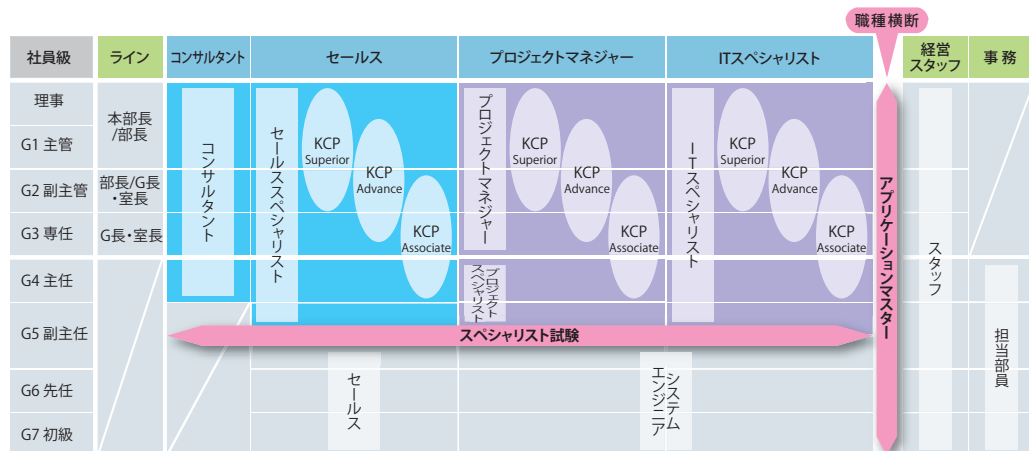
人材育成の仕組み

『“コベルコシステムの最大の資産は人であり、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮こそが会社発展の原動力である”という認識のもと、一人ひとりが互いを尊重し合いながらイキイキ働き、プロフェッショナルとして人間として成長できる会社の実現』を人事基本理念に据え、「期待する人材像、人材要件」を下記の通り定義しています。

- ① ITのプロフェッショナルとして、常に自らの専門性を磨き、高めるとともに、時代や環境の変化に、柔軟に自分で考えて動くことができる人材
- ② 人と協働し、他も活かし、組織・チームの目標達成のために、組織・チームの能力の最大化と最大限発揮に貢献できる人材
- ③ 社会人・企業人として、社会や会社のルールを遵守し、お客様に対しても常に責任を持って誠実に対応できる人材

複線型プロフェッショナル職制度を基軸に ～コベルコシステム認定プロフェッションを目指して～

これらを具現化する仕組みとして、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮を追求する複線型プロフェッショナル職制度を採用しています。そしてハイレベル人材の育成・登用および各職種の目指すべき人材像として、KCP認定制度 (KOBELCO SYSTEMS Certified Profession) を設けています。



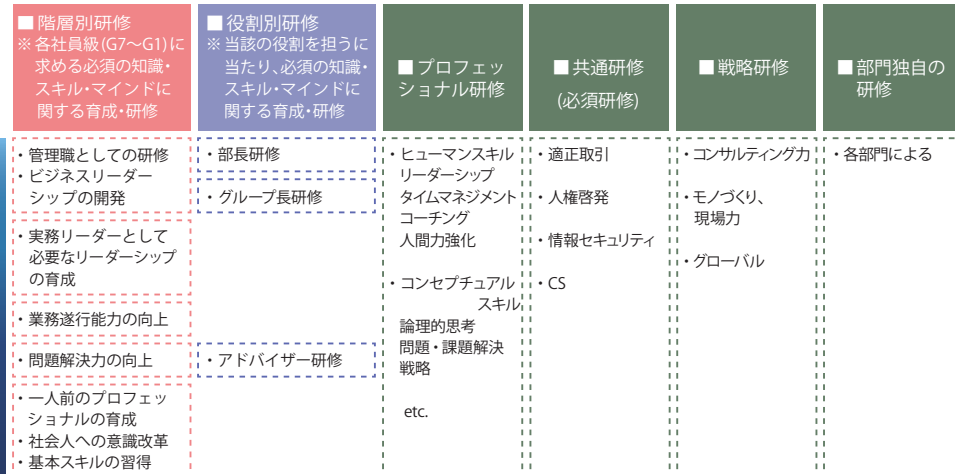
■複線型プロフェッショナル職制度 / スペシャリスト試験制度 / KCP認定制度 / アプリケーションマスター制度

教育・研修体系

コベルコシステムでは、「すべての質を高めよう」というスローガンのもと、IT研修はもとより、ヒューマンスキルなどの普遍的要素の研修や、お客様の経営課題解決に寄与する、コンサルティング力、モノづくりや現場力の強化など経営戦略に即応した、さまざまな研修を実施しています。

また、社員全員が知識を習得するための必須研修、各階層や役割別の研修、個人の成長段階にあわせて受講できる研修や、それぞれのキャリアプランにあわせて選択・受講することができる通信教育やスマートフォンでも学習できるeラーニングなど、個人のスケジュールにあわせて効率よく利用できる環境も提供しています。

2017年はお客様により高い付加価値 (High-Value) を提供できる人材の育成をさらに強化します。



また、社員全員が知識を習得するための必須研修、各階層や役割別の研修、個人の成長段階にあわせて受講できる研修や、それぞれのキャリアプランにあわせて選択・受講することができる通信教育やスマートフォンでも学習できるeラー

コンサルティング力強化プログラム

ITを取り巻く環境変化に伴い、現在コベルコシステムに求められているのは、お客様のビジネス環境やニーズを理解し、ともに経営課題を解決できる人材です。

そのような状況を背景に、「ITベンダーからITパートナーへの変革」というスローガンのもと、2016年から開始したのが「コンサルティング力強化プログラム」です。

当プログラムでは、企業分析方法などの知識習得をはじめ、提案書作成、プレゼンテーションなどの講義や実践演習を通じ、さまざまな

アプローチでお客様へ提案する際の姿勢やスキルを体得します。

当プログラムの専門コースでは、神戸製鋼グループ会社の元専務・元CFOを講師に迎え、経営者の視点を学びながら実際のお客様向けに提案を行うなど、非常に実践的な内容となっています。

プログラム期間は約1年間の長丁場で、2016年の受講者は各部門から選抜された中堅～ベテラン層の14人です。まだ始まって間もない研修ですが、今後も継続的に実施し、お客様のパートナーとして活躍できる人材を増やしていきます。

2016年 コンサルティング力強化プログラム 参加者の声

本研修に1年間参加することで、コンサルティング技法を習得できたことはもちろん、より経営者の視点を意識するようになったことは大きな成果だと感じます。これまではお客様の現場の問題に取り組んでいましたが、この研修に参加してからは、お客様の経営課題を意識するようになりました。

本研修は役員を経験された方が講師となっており、これまで知り得なかった役員のものごとのとらえ方や、自分の考えをお客様の経営層に伝えるためにはどうあるべきかを指導していただくことができ、非常にいい経験となりました。

また、1年間を通じて他部署メンバーと密度の濃い時間を共有することで、お客様に提案を行う際のポイントなど多くの気づきを得ました。長い期間で、業務調整をしながらの参加は大変な面もありますが、得られるものが多い有意義な研修でした。



システム事業部 SO本部 第1サービス部
本社・技開システム室 大藤 智久さん

グローバル人材育成プログラム

コベルコシステムが求めるグローバル人材とは、「社会人基礎力」「異文化理解」「グローバル・コミュニケーション力」「ITスキル、プロジェクトマネジメントスキル、セールススキル」をベースに「異文化を理解する力」「世界で幅広く通用するコミュニケーション力」というグローバル特有要件を兼ね備えた人材です。

2016年からは、これまでの語学力サポートやグローバル研修に加

え、特にビジネス上で語学力やコミュニケーションを活かせるグローバル人材の育成に重点を置いた当プログラムがスタートしました。

当プログラムは一般的な語学研修とは異なり、英語でのE-Mailライティングスキルや海外でのビジネスミーティングの進め方など、異文化コミュニケーションの要諦を解説と実践演習による経験を通じて理解・習得する内容になっています。研修中の講義はもちろん受講者間の会話もすべて英語で進行します。

初年度は7人が参加しました。今後も、グローバルビジネスで活躍できる人材輩出の環境づくりを積極的に行っていきます。

2016年 グローバル人材育成プログラム 参加者の声

この研修への参加が決まったのは、業務で英語を利用する機会が増えており、焦りを感じていた時期でした。研修の内容はメールの書き方、会議の司会方法、プレゼンテーションの仕方など、すぐに業務で活用できる実践的なものでした。今回の研修は、入社してビジネスマナーとして電話やメールについて学んだことの英語版のようで、ビジネスで英語を利用するうえで大切な点を学ぶことができ、良かったと感じています。

研修では英語の勉強方法の説明もあり、日々、学習することを習慣とするよう励まされました。今後もこの習慣をキープ

していきたいと思っています。また、今回の研修に参加したメンバーでコミュニティとして活動していくことになりましたので、研修で学んだことを社内で使用していけるような展開を考えていきたいと思っています。



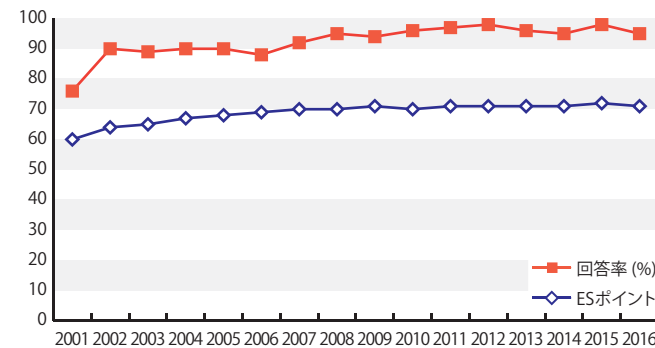
産業ソリューション事業部 ソリューション統括
インダストリーソリューション本部 第1開発部
西日本第1グループ 橙 由佳梨さん



社員と組織の絆を深めるために

社員満足度調査

「社員満足 (ES) の向上がお客様満足 (CS) の向上につながる」という基本認識のもと、2001年から毎年、社員満足度調査を実施しています。全社員を対象に匿名で回答してもらうことで、社員の率直な意見を集め、課題の分析や改善策の立案を行っています。総合満足度との相関が高くポイントの低い設問への対応に加え、「一律から個別へ」の方針を掲げ、「業務環境の違い」にも着目して対策をとっています。全社結果では70ポイント以上を10年連続堅持していますが、業務環境による社員満足度のバラつきは正など、社員一人ひとりを取り巻く環境を踏まえ、「満足の質」を高める課題の発見や改善に向けたアクションをとっています。



KWC (KOBELCO SYSTEMS Work-life-balance Community)

「KOBELCO SYSTEMS Work-life-balance Community (略称: KWC)」は、「社員が自らイキイキと働き続ける会社」をビジョンに、ワークライフバランスに着目した全社横断の自主活動を展開しています。

昨年は、「組織全体で取り組む「時短推進」」をテーマに活動を進め、部門によっては形骸化してしまった「ノー残業デー」を全社で復活させる提言を行いました。

またKWCでは、年に1回、ワークライフバランスについて考える全社フォーラムを開催しています。昨年のフォーラムでは、「Change our 'アフター5」」と題して、長時間労働やノー残業デーの運用状況を共有したり、今後のノー残業デー活用方法について、参加者同士で話し合いました。



■KWCフォーラム

ワークライフバランスを実現するためには、制度や仕組みを充実させることに加え、社内のノウハウを共有したり、社員間の絆を強くすることが大変重要です。

今後も、KWCを触媒として、社員一人ひとりのワークライフバランス実現をサポートしていきます。



2015年度 KWCリーダーの声 (2015年5月～2016年3月)

「ノー残業デー復活」を提言するにいたった思い

2015年度の活動テーマ検討にあたっては「イキイキと働き続けるために必要なことは何か?」を話し合いました。その中でメンバーの関心が高かった「時短推進」「長時間労働抑制」の観点から、全社で取り組める施策として「ノー残業デーの復活」に決定しました。

当社では以前「ノー残業デー」を各部署で実施したものの、形骸化してしまった経緯があります。そこで、形骸化を防ぐ仕組みとセットで運用すれば、業務を一定時間で区切る意識改革の手助けとなり、長時間労働の改善ができるのでは、と

考えました。

ただ、制度は復活したものの、実施するのは社員一人ひとりです。社員全員でこの取り組みを継続して時間内に仕事をやりきることが習慣化し、休暇やフレックスタイムのなどの制度も活用して、多様な働き方が当たり前になる職場風土にしていければと思います。



システム事業部 SO本部 第4サービス部 機械システム室 殿浦 亮一さん

東京本社リニューアル

コベルコシステムでは、2013年4月の神戸本社移転の際に実施したワークスタイル変革で、「働く人の想い」を具現化したさまざまな施策に取り組み、「社員が求めるオフィスの形」を実現しましたが、

この施策を横展開して、2016年10～11月に東京本社オフィスのリニューアルを実施しました。また、同時に環境に配慮して紙の削減にも取り組みました(段ボール箱770個分を資源としてリサイクル)。

■主な施策

執務スペースにフリーアドレス制を導入し、従来の固定席の概念を撤廃。主に営業・SEを対象に組織間の壁をなくし、スペース効率の向上およびレイアウト変更のフレキシビリティ向上を実現。

お客様や就職活動中の学生を気持ち良くお迎えできるように受付エリアを新設。東京本社の顔として開放的で気持ちの良い空間にリニューアル。

執務フロアに点在していた会議室を会議室専用エリアを設けて集約し、その中にお客様専用会議室を新設。執務エリアと会議室を分離することで、セキュリティレベルの向上を実現。



■座席のフリーアドレス化を実現



■スッキリとした明るい受付に



■待合用にイスとテーブルを設置



■会議室専用エリアを設け、お客様専用会議室を新設

全社イベント「ハッピーデー」～家族とともに～

2008年から毎年秋に家族参加型の全社イベントを開催しています。2016年は東京地区、神戸地区あわせて約730人の社員とその家族が参加して、秋の1日を楽しみました。

東京地区では、毎年ビュッフェ形式の食事と観光が恒例となっていました。2016年は目先を変えて、横浜中華街 重慶飯店別館でランチを堪能しつつ、豪華景品を揃えたビンゴ大会で盛り上がりました。

神戸地区では、ビンゴ大会で盛り上がったあと、いつも人気の神戸フルーツフラワーパークでのバーベキューに舌鼓。六甲山の山麓にたくさんの笑顔が広がりました。



■全社イベント風景(東京地区)



全社イベントは、「社員同士の一体感の醸成」「社員を支えてくれている家族への感謝」をテーマに開催されています。職場ではなかなか見ることのできない上司や同僚の普段の顔が見られるなど、社員同士の親睦がいつそう深まる貴重な機会です。

今年は、コベルコシステム設立30周年の節目の年です。社員・ご家族ともに期待が膨らんでいる全社イベント「ハッピーデー」。部門を越えて絆を深め合い、会社としての飛躍を目指します。



■全社イベント風景(神戸地区)



環境保護活動

「森の世話人」活動

コベルコシステムが本拠を置く神戸は、シンボルである六甲山の自然に恵まれ、地域社会全体で六甲山の自然を守り育て、親しみ、そして愉しんでいます。

コベルコシステムでは、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所、兵庫県、関係4市が推進する防災事業の六甲山系グリーンベルト整備事業に「森の世話人」として参加し、六甲山の前山の金鳥山(神戸市東灘区)南側に広がる森林を「Kocoroちゃんの森」と名付けて整備しています。

主な活動は、他の植物の生育を妨げるネザサの刈り取り、腐朽木や外来樹種の伐採、常緑樹の間伐、落葉広葉樹の植樹などです。活動に際しては、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」のサポートを得て森づくりを行っています。

2010年から活動を開始し、50~60人規模の活動を年3回、その間に10人前後の規模の維持活動・準備活動を年間10回程度実施しています。

2016年の活動は天候に恵まれ、あわせて17回の活動を実施することができました。3月には、「Kocoroちゃんの森」の休憩所に設置されていた老朽ベンチの一部を撤去して4脚のベンチを設置し、ハイカーや登山客の皆さんにご利用いただいています。

また、2016年も多数の落葉広葉樹(ヤマザクラ、イロハモミジ、コナラ)の植樹を行いました。2017年も引き続き、ネザサ刈りや伐採・間伐とともに落葉広葉樹の植樹を行い、土砂災害に強い森づくりを実施していきます。



コベルコシステムの自然保護活動イメージキャラクター Kocoroちゃん
※第12回アニメーション神戸協賛事業として公募



「森の世話人」活動 参加者の声

「森の世話人」活動へは、3年ほど前から妻と二人の娘と参加しています。活動の拠点となる「Kocoroちゃんの森」は、阪急岡本駅近くにある天上川公園からスタートし、急な坂道・階段と山道を小1時間ほど堪能した後に到着します。そこから見える神戸の街は、汗をかいた清々しさと相まって何とも素晴らしいものです。

現地では、子どもたちのためにNPOの方が山の木々や自然にまつわるゲーム大会、ノコギリを使っての伐採体験など、楽しくも有意義な体験ができる機会となっています。

4歳くらいからのお子さんでも楽しんでもらえると思いますので、皆さんも一緒にご参加されてはいかがでしょうか。六甲の美味しい空気の中で食べるお弁当は格別ですよ。



システム事業部ICT本部クラウドサービスセンタークラウド基盤運用グループ 藤村 貴志さん

※コベルコシステムの「森の世話人」活動の活動報告は、国土交通省の以下のページに掲載されています。
http://www.kkr.mit.go.jp/roko/pr_media/plant/group/company/kobelco.php

社会貢献・地域貢献活動

第6回神戸マラソン団体ボランティア

コベルコシステムは、第1回神戸マラソンから社員有志が団体ボランティアとして参加してきました。2016年11月20日(日)に開催された第6回神戸マラソンにも、川瀬社長以下25人の社員がボランティアとして参加しました。



今大会のボランティアスタッフの担当は、長田区内の市道高松線沿い28km地点付近における走路整理でした。

毎回ペースセッターを務めている社員が今回もペースセッターとして走り、また、今までボランティアとして参加してきた社員をはじめ、多くの社員がランナーとして走りましたが、ボランティアスタッフは、走路の安全を確認し、ゴールを目指して力走するランナーを応援しながら、無事、活動を終えることができました。



留学生インターンシップ受け入れ

コベルコシステムでは、地域貢献活動の一環として、2008年から兵庫県内の大学に在籍し、日本での就職を希望する外国人留学生のインターンシップを受け入れています。

日本企業で働きたい留学生を教育の一環として継続的に受け入れることによって、地域でグローバルの輪を広げることに貢献しています。同時に、異文化を学び、当社のグローバル化への適応力を養い続けています。



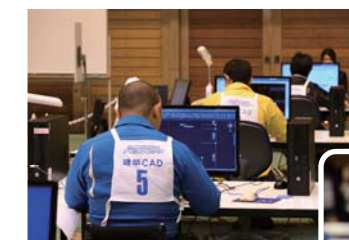
■主な受け入れ元

2008年	10人	経済産業省「アジア人財資金構想」
2009年	8人	経済産業省「アジア人財資金構想」
2010年	5人	ひょうご大学連携協議会
2011年	8人	大学コンソーシアムひょうご神戸
2012年	10人	大学コンソーシアムひょうご神戸
2013年	8人	大学コンソーシアムひょうご神戸
2014年	10人	大学コンソーシアムひょうご神戸
2015年	6人	大学コンソーシアムひょうご神戸
2016年	10人	大学コンソーシアムひょうご神戸

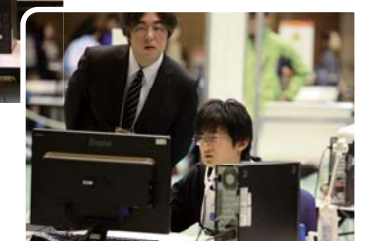
アビリンピック支援

アビリンピック(全国障害者技能競技大会)は、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が主催し、障がいを持つ人々が日頃培った技術を競うことで、職業能力の向上を図り、企業をはじめ社会の人々に障がいのある方々に対する理解と認識を深めてもらい、その雇用の促進を図ることを目的として開催されています。

コベルコシステムは2003年以来、技能競技種目である機械CADと建築CADの環境設定や当日のヘルプデスク業務を担当しています。



■競技風景



■競技者のサポートを行う社員

社会貢献・地域貢献活動

トライサイエンス実験教室への参加

コベルコシステムの東京本社では、日本IBMが実施する地域貢献活動にグループ企業として参加しています。

日本IBMでは、さまざまな社会貢献活動を実施していますが、その中の、科学技術館で開催されている「トライサイエンス実験

教室」という子ども向け科学実験教室のボランティアに有志の社員が参加し、子どもたちと科学実験を楽しんでいます。



トライサイエンス実験教室 参加者の声

トライサイエンス実験教室は、未来を担う子どもたちに実験を通じて科学の楽しさを学んでもらうボランティア活動です。

私たちが講師になって子どもたちに教えているはずが、逆に子どもたちの発想にビックリしたり、感動したりで、こちらが教えてもらっていることも度々です。この楽しさと充実感で毎回参加しています。

子どもたちに笑いと感動、パワーをいただいて、仕事に対するエネルギー充電・パワーアップもできています。

また、一緒に活動している日本IBMの方、一般の方とも楽しく交流ができて人生の幅が広がっていくのを感じています。

活動は休日がほとんどですが、とても充実しています。

ボランティア活動は楽しい〜!!

産業ソリューション事業部 ソリューション統括
インダストリーソリューション本部
技術開発センター 技術グループ 森和之さん



その他の社会貢献・地域貢献活動

■スポーツ振興協賛

NPO法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構(SCIX)に協賛しています。

■芸術への協賛

公益社団法人大阪フィルハーモニー交響楽団に協賛しています。

■地域イベントへの協賛

寄付や協賛を通じ、地域の伝統や文化の維持に貢献しています。

- 神戸まつり
- 神戸ITフェスティバル
- 神戸ルミナリエ

■兵庫県警へのサイバー犯罪捜査官の派遣

高度化するサイバー犯罪に対応するために、兵庫県警察本部からの要請により、サイバー犯罪捜査官として社員を派遣し、IT捜査技術の向上に貢献しています。

■大学の特別講義への講師派遣

流通科学大学経済学部の情報コミュニケーション特別講義に、社員を講師として派遣し、CSRについての講義とコベルコシステムのCSRへの取り組みを紹介しました。



取得済の認証・認定・許可



■ISO9001適用部署:
営業本部・ERP事業部・ソリューション事業部・システム事業部SO本部製造システム部・システム事業部ICT本部
■登録活動範囲:
製造業、流通業及びその他の産業向け顧客要求事項に基づくソフトウェアの設計・開発・製造及び付帯サービス(教育、移行支援及び瑕疵対応)

■登録範囲:
ハウジングサービス、インフラ運用サービス及びソリューションサービスの提供

兵庫県知事許可一般建設業(電気通信工事業)
[許可番号/(般-27)第114641号]

会社プロフィール

会社名称: コベルコシステム株式会社

創立: 1983年10月1日

(神鋼コンピュータシステム株式会社として発足)

設立: 1987年7月1日(コベルコシステム株式会社に商号変更)

代表者: 代表取締役社長 田野 美雄

株主: 日本アイ・ビー・エム株式会社 51%

株式会社神戸製鋼所 49%

資本金: 4億円

社員数: 1,058人(2017年1月1日現在)

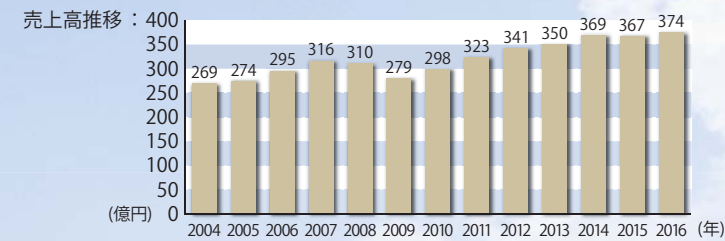
関連会社: コベルコソフトサービス株式会社

本社: 〒657-0845

神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号(シマブンビル)

URL: <http://www.kobelcosys.co.jp/>

売上高: 374億円(2016年度)



事業所:



沿革

2016年: IoTビジネスセンター設立

東京本社リニューアル

2015年: 「コベルコシステム クラウドインテグレーションサービス」開始
事業部制導入

2014年: SAP導入テンプレート「HI-KORT」のクラウドサービス開始
本社「近畿ニューオフィス コミュニティ賞」受賞
ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)永年登録表彰

2013年: 本社移転
「プライバシーマーク制度貢献事業者」として表彰

2012年: 営業部を統合し、営業本部を設置

2011年: 中国・北京で開催された「SAPPHIRE NOW in Beijing」に出展

2010年: クラウドサービスセンター設立

2009年: 次世代育成支援対策推進法認定マーク(くるみん)取得

「秘伝のタレ®」「秘伝のワザ®」を商標登録

2007年: 全国企業品質賞にて大賞受賞(栃木県経営品質協議会主催)

2006年: 東京事業所を東京本社と改称
全国企業品質賞にて最優秀賞受賞(栃木県経営品質協議会主催)

2005年: AMS®センター開設

2004年: IPセントレックス・IPコミュニケーション事業に進出

2003年: ISMS認証取得

2002年: アウトソーシング事業を強化 日本IBMの資本参加

2000年: プライバシーマーク(個人情報保護)の認定取得

1999年: ASP事業の本格的な展開を開始

ISO9001認証取得

※ AMS: Application Management Service
SAP社のERPパッケージをベースとした基幹システムの、本番稼働後の安定稼働や運用技術支援、業務の定着化を支援するサービス

編集後記

本レポートを最後までお読みいただき、まことにありがとうございました。

本レポートはそれぞれの分野の担当者が、できる限りわかりやすく伝えることを心がけて執筆を担当しています。加えて、記載の内容をより理解いただくために、図や写真を多用し、かかわった社員の声を数多く記載いたしました。

コベルコシステムのCSR活動に対する皆様のご理解が深まり、親近感を覚えていただけたら幸いです。

今後もステークホルダーの皆様と“ともに”の姿勢を貫きながら、さらにCSR活動を強化していきます。

ご意見・ご感想は、当社ホームページ「その他のお問合わせ」からお願いいたします。

<https://www.kobelcosys.co.jp/inquiry/other/>

コベルコシステム株式会社 経営企画部 CS・CSR推進グループ
〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル10F
TEL: 078-261-6001 FAX: 078-261-7520